教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 准教授　　氏名： 村上　加代子

研究分野	研究内容のキーワード
ディスレクシア，英語指導法，英語基礎リテラシー習得，インクルーシブ教育	英語読み書き指導、ディスレクシア
学位	最終学歴
M.A.	University of Wisconsin-Madison, School of Library and Information Studies

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.授業,実習，演習等の工夫・改善	2020年6月2021年4月	オンライン授業となったため，担当授業の学生にGoogle Formでネット接続状況等のヒアリングを実施。アンケート結果を受けて話すスピードや課題分量，提出方法などわかりやすくなるよう工夫した。
2.授業,実習，演習等の工夫・改善	2020年5月2022年3月	小学校教員免許を希望する自主的学習会で個人面接，集団討論，場面対応，小論文の指導を担当し，好評を得た。
3.授業,実習，演習等の工夫・改善	2019年6月2019年8月	小学校教員志望者のみの２年生ゼミにて地域の小学校への授業見学を引率。授業振り返り等を行い教育実習への意識向上に貢献した。
4.その他の教育上の能力	2018年8月2022年3月	小学校教員免許更新講習の講師（主に幼児・小学校教育）を務め，好評を博した。
5.授業,実習，演習等の工夫・改善	2012年10月2018年3月	英語指導演習機会の充実を目的として，児童英語科目履修生と学園祭で毎年 キッズ英語コーナー ブースを企画。また，「英語であそぼう会」を年に２回，地域の幼児～小学生を対象に大学でハロウィンなどのイベントを企画した。学生も企画運営に関わり，アクティブラーニングの場にもなった。
6.授業外における学生支援	2012年2015年	神戸山手女子中学校にて英語が遅れがちな生徒への夏期講習の指導支援を行った。
7.授業外における学生支援	2011年4月2017年3月	児童英語科目履修者を対象に，聖ミカエルインターナショナルスクールの幼児，小学部への見学を企画・提案し，引率を行った。英国スタイルの英語の指導実践を見学できる貴重な機会として学生に好評であった。
8.授業,実習，演習等の工夫・改善	2011年4月2015年3月	自立した学習者育成の試みとして，「総合英語」科目にオンライン（e-learning）学習を導入。個別の学習目標に合わせた学習カウンセリングを毎月実施しその成果を紀要に報告した。
9.授業,実習，演習等の工夫・改善	2010年4月2012年3月	担当している 英文法 基礎英語 TOEIC 科目学力格差が大きく，授業内容の統一が困難であった。初回に個別カウンセリングを実施し学生の希望や学習スタイルを把握し，個別課題を準備するなど個別の学習の質的向上と学力向上を目指した。その結果学生の自習時間が増え英語力向上を実感するという学生が増えた。TOEIC科目での取り組みについて紀要に報告した。
10.授業外における学生支援	2009年4月2018年3月	児童英語科目履修者の指導実習向上のため，児童館や近隣保育園に依頼し，英語指導実習を実施できるよう交渉し，年間3回の実習現場を確保した。学生そして施設の幼児や職員にも好評であった。
2 作成した教科書、教材		
1.New Horizon Elementary English Course	2024年4月	令和6年度版小学校外国語教科書（5、6年生）編集者として参加。 デジタル教科書のアルファベットチャンツの作成、文字と音、教科書のレイアウト等に関わるほか、指導書にも特別支援教育の観点から執筆。
2.『英単GO!』	2021年3月	中学校英語副教材『めきめきEnglish』（2021,浜島書店）の英単語教材『英単Go！』の問題作成，編集，動画作成を担当した。 村上は、「単語の読み方レッス

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		ン」p.2～p.7 部分の問題作成、編集、音声録音、解説を担当。浜島書店.
3.New Horizon Elementary English Course	2020年4月	小学校外国語教科書（5、6年）に編集者として参加。
4.『英語の音韻意識アクティビティ』ジャパンライム（DVD）	2018年	主にアルファベットの文字、音と文字の学び、フォント等に参加。特別支援教育教育の観点から指導書に執筆。 日本人児童を対象とした研究に基づく英語音韻意識の理論編と実践編からなる指導者用DVDを作成した。英語の音韻意識の発達を段階的に紹介し，具体的にそれぞれの音韻単位ごとの活動を紹介。内容の一部を 英語概論 初等教科教育法 で使用している。
5.『読み書きの苦手な子どもたちへの英語指導-理論と実践』ジャパンライム（DVD）	2017年	村上加代子監修・解説，チェン敦子解説・指導 英語学習におけるつまずきやすい子どもの特性の理解について，概論から英語の躓きのアセスメント，最新のフォニックス情報に関する情報を網羅した。多感覚指導を用いたアクティビティを多数紹介している。内容の一部を 英語概論 初等教科教育法 で使用している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.ヤングアメリカンズ企画実施	2010年12月2018年3月	実践的英語を学ぶ機会向上のため，NPO ヤングアメリカンズ （米国の音楽教育アウトリーチ団体）と提携を企画，交渉，提携，実施までのすべての過程で中心的役割を担った。学生ボランティアを毎年募集，引率を行った。
2.J-SHINE認定校への企画申請担当	2010年4月2018年3月	勤務大学の児童英語講座をJ-SHINEの認定校に申請し，公式認定校として承認された。審査書類作成，短大プログラム作成など全段階に責任者として関わった。参加募集，免許申請，更新も担当。
4 その他		
1.中学校外国語科　教科書 ”New Horizon”編集委員	2025年4月現在	中学校英語教科書『New Horizon English Course』（東京書籍）編集委員に就任し，主に文字指導と特別支援的観点から編集に携わっている。 巻末資料「これからの英語教育における特別支援教育のあり方」384-389執筆
2.小学校外国語科 教科書 ”New Horizon Elementary” 編集員	2024年5月21日2030年3月31日	小学校外国語教科書『New Horizon Elementary English Course』（東京書籍）編集委員に就任。特別支援、文字指導領域を主に担当。
3.中学校外国語科　教科書 ”New Horizon”編集委員	2020年4月2024年3月31日	中学校英語教科書『New Horizon English Course』（東京書籍）編集委員に就任し，主に文字指導と特別支援的観点から編集に携わっている。
4.小学校外国語科 教科書 ”New Horizon Elementary” 編集員	2016年4月1日2023年3月31日	小学校外国語教科書『New Horizon Elementary』（東京書籍）編集委員に就任。特別支援、文字指導領域を主に担当。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.TOEIC（IP）	2021年7月	905点（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）
2.特別支援教育士スーパーバイザー（S.E.N.S―SV）	2019年2月	第1155号　（特別支援教育士認定協会）
3.TOEIC	1998年3月	960点　（一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）
4.日本語教員免許状（認定）	1992年3月	第11号　（関西外国語大学）
5.中学校教諭一種免許状（英語）	1992年3月	第2698号　（大阪府教育委員会）
6.高等学校教諭一種免許状（英語）	1992年3月	第2976号　（大阪府教育委員会）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.社会貢献・社会連携に関する事項	2025年4月	浜島書店　東京書籍版「めきめきEnglish」「Smile

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		English」「単語の読み方レッスン」別冊単語編集
2.社会貢献・社会連携に関する事項	2024年10月11日	株式会社Kids Developer（六甲アイランド）主催「効果的な英語読み書き指導のための理論とスキル」研修講師。
3.社会貢献・社会連携に関する事項	2024年3月11日	西宮月曜夜の会 にて「聞こえにくさのある学習者への英語音韻意識指導」講師
4.社会貢献・社会連携に関する事項	2024年3月8日	大阪医科薬科大学LDセンター講演（オンデマンド）にて「さまざまなニーズのある子どもへの英語指導～子どもの特性に合わせた指導」講師
5.社会貢献・社会連携に関する事項	2024年3月7日	京都先端科学大学FD研修会にて、「英語の読み書き障害（ディスレクシア）の学びの困難さについて」講師
6.社会貢献・社会連携に関する事項	2024年2月3日	科研報告会を島根大学にて実施「英語教育セミナー 入門期のつまずきへの支援を考える」村上は初期の読み書きの躓きとその対応について。参加者は主に小中学校教員。
7.社会貢献・社会連携に関する事項	2023年11月11日	ＵＤ多摩2023年度11月研究会にて「小学校から育てよう！ ユニバーサルデザインに配慮した単語の読み書き」研修講師
8.社会貢献・社会連携に関する事項	2023年11月6日	京都市教育委員会教員研修にて「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた英語指導」講師
9.社会貢献・社会連携に関する事項	2023年9月15日	長野県教育委員会 第三回通級指導教室担当者スキルアップ研修会「英単語の読み書きに躓く児童生徒の理解と指導」講師
10.社会貢献・社会連携に関する事項	2023年8月21日	神奈川LD協会夏のセミナー（オンライン）にて、「基礎からはじめる英語の読み書き実践演習」講師
11.社会貢献・社会連携に関する事項	2023年5月30日	寝屋川市教育委員会 教員研修「ユニバーサルデザインの視点での小中連携で育てる英語教育」
12.社会貢献・社会連携に関する事項	2022年11月13日	「英単語や文の読み書きの具体的指導 ～小・中学生の単語の読み書き習得を支える」NPO法人EDGE主催 LSAフォローアップ研修講師
13.社会貢献・社会連携に関する事項	2022年9月13日オンライン	2022年度寝屋川市教育委員会教員研修（小学校）「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 英語教育」講師
14.社会貢献・社会連携に関する事項	2022年9月13日	2022年度寝屋川市教育委員会教員研修（小学校）にて「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 英語教育」講師
15.社会貢献・社会連携に関する事項	2022年3月10日	甲南女子中学校教員研修 「学習障害のある生徒への理解と対応」講師
16.社会貢献・社会連携に関する事項	2022年1月15日	新居浜カウンセリング同好会「英語の読み書きが苦手な児童生徒の理解と指導」講師
17.社会貢献・社会連携に関する事項	2022年1月4日 ~	NPO法人EDGE主催（オンデマンド講座）『子どもの味方の「教え方」 ～気づいてほしい読み書きの困難～』コースにて、英語の躓きと指導の方法を担当。
18.社会貢献・社会連携に関する事項	2022年1月～現在	英単語の読み書きが苦手な児童生徒への指導に困る教員や、子どもを持つ保護者のための協会として「学び支援の会」を設立。学習相談、教員研修、動画配信等を行っている。
19.社会貢献・社会連携に関する事項	2020年12月	長崎大学子どもの心の医療・教育センターe-ラーニングプログラムの講座を担当（オンデマンド配信）。
20.社会貢献・社会連携に関する事項	2020年11月2022年12月	大阪大学キャンパスライフ健康支援センターに協力。英語のみに躓く優秀な大学生・大学院生への学習支援や合理的配慮の決定に専門家として助言や指導を不定期に4～５回行った。
21.社会貢献・社会連携に関する事項	2020年1月	特別支援教育士支援協会滋賀支部主催シンポジウムに指定討論者として参加。
22.社会貢献・社会連携に関する事項	2019年10月18日	京都市教育委員会教員研修会講師。
23.社会貢献・社会連携に関する事項	2019年8月22日	加東市英語教育スキルアップ研修会，加東市教育委員会（於加東市市役所）研修会講師。
24.社会貢献・社会連携に関する事項	2019年8月7日	「楽しく学ぶ外国語活動の保育・授業作りのABC」教員免許状更新講習。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
25.社会貢献・社会連携に関する事項	2019年8月1日	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた英語指導 をテーマに学校教員研修会講師。
26.社会貢献・社会連携に関する事項	2019年7月19日	青森県八戸市教育委員会主催教員研修会講師。
27.社会貢献・社会連携に関する事項	2019年4月～現在	京都市教育委員会主催「発達障害に関する教職員の理解啓発・専門性向上事業」英語関連アドバイザーに就任。年に３回程度，教員の研修，授業観察，指導助言を行っている。
28.社会貢献・社会連携に関する事項	2019年1月27日	高知LD親の会sky主催研修会講師。
29.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年9月10日	茨木市教育センター主催教員研修会講師。
30.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年8月28日	石川県教員総合研修センター主催平成30年度教育課題専門研修 指導力の深化を図る発達障害実践研修会講師。
31.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年8月18日	東京言語研究所主催「教師のためのことばワークショップ」研修会講師。
32.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年8月8日	「楽しく学ぶ外国語活動の保育・授業作りのABC」教員免許状更新講習。
33.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年4月2020年3月	群馬県高崎市教育委員会と高崎健康福祉大学主催「発達障害に関する教職員の理解啓発・専門性向上事業」の英語関連アドバイザーに就任。年に３-４回以上高崎市を訪問し，教員の研修，授業観察，教材作成を行った。
34.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年4月2019年8月	全国小学校英語教育実践研究会の依頼により三重県名張市立つつじが丘小学校のアドバイザーに就任。小学校オリジナルの段階的四線指導シート，アルファベットノートなど開発したほか，年に３回ほど訪問し，教員研修や指導案への助言等を行った。
35.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年1月21日	一般社団法人テトラCoCo研修会講師。
36.社会貢献・社会連携に関する事項	2018年～現在	株式会社モリサワのUDフォントのエバンジェリストに就任。
37.社会貢献・社会連携に関する事項	2017年2月16日	私立小学校連盟外国語部会研修会講師。
38.社会貢献・社会連携に関する事項	2016年～2018年	宇遊工房と小学生用新フォントの開発協力。平成30年度文部科学省発光の小学校外国語教材“We Can!”の使用フォントとして作用された。小学生用の欧文書体で，はじめて英語を学ぶ児童が学びやすいデザインを開発した。
39.社会貢献・社会連携に関する事項	2015年9月7日	寝屋川市教育委員会研修会講師。
40.大学運営に関する事項	2015年6月～2016年12月	神戸山手短期大学第三者評価実施のため，準備委員としてヒアリング資料の作成および対応に参加した。当日のヒアリングにはキャリア・コミュニケーション学科主任として参加した。
41.大学運営に関する事項	2015年4月	神戸山手短期大学にラーニングコモンズ設置を提案し，有機的な空間活用づくりに貢献した。
42.社会貢献・社会連携に関する事項	2014年7月25日	東京都小平市立第一中学校FD研修会講師。
43.社会貢献・社会連携に関する事項	2013年10月	アクティブラーニングの取組として学科教員が企画。神戸市内のパン屋とオリジナルパンを企画し大学祭 諏訪山祭 で販売。メディアにも取り上げられた。村上は企画，実施に協力・参加した。
44.社会貢献・社会連携に関する事項	2013年8月26日	東京都小平市立第一中学校FD研修会講師。
45.社会貢献・社会連携に関する事項	2013年4月20日3	主催しているLD児童生徒教室が（株）タオと教育提携。パソコン教材『天神』を試用し，改善助言等の協力を行った。
46.社会貢献・社会連携に関する事項	2010年8月～2012年3月	主催しているLD児童生徒の教室が（株）ガウディアと教育提携。小学生向け国語教材を試用し，改善助言等の協力を行った。
47.社会貢献・社会連携に関する事項	2009年4月～2018年3月	英語の読み書きが苦手な小学生から高校生への 読み書き支援教室（チャレンジ教室） を神戸山手短期大学の一室で毎週開催。保護者への学習相談等も実施した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.個に応じた英語指導を目指して：ユニバーサルデザインの授業づくり	単	2021年	くろしお出版 （176ページ）	本書は英語教科における個別最適化の授業実践を目指した内容である。特に個人差の現れやすい「読み書き指導」を指導案作成，ローマ字指導，音韻意識指導，フォニックス指導とカテゴライズしてポイントを解説している。また，「ユニバーサルデザインを意識したつまずかせない視点」として発達障害の基礎知識，ディスレクシア，日本における音韻意識の指導ポイント，英語圏での読み書き指導，カリキュラム比較等を紹介し，これから望ましい指導のあり方について提案した。
2.特別支援教育すきまスキル　高等学校編	共	2020年	明治図書出版 青山新吾・堀裕嗣編 （160ページ）	本書は高校の教員を対象として，日常のなかで生じそうな状況をピックアップしその状況の背景要因，そのために知っておくべき知識，その状況に対しての指導スキル（全体・個別）を領域ごとにまとめた一冊である。村上担当は 『第４章：英単語が覚えられない，英語の学習に苦戦している生徒への対応ポイントは？』である。英単語は「覚える」以外の学びの選択肢を生徒が持つことが大切である。読み発達研究で得られた知見から，日本の高校生がすぐに使える英単語の学習方法について紹介している。pp.76-81. （湯澤美紀，村上加代子　ほか17名）
3.多感覚を生かして学ぶ小学校英語のユニバーサルデザイン	共	2020年	明治図書出版 監修 竹田契一 （144ページ）	本書は中学校での英語学習者を対象として，英語の学習を７段階に分けてそれぞれに理論と解説し多感覚指導方法を紹介している。具体的には 音韻表象 （音声イメージ），文字，単語,文法,話す力,やりとりする力,書く力 の領域ごとに 英語圏や日本の先行研究等を踏まえた指導例やその可能性を示した実践書である。村上は音韻表象,文字,単語を担当し,音声から読み書きの基盤作りまでの理論と指導方法について概説。pp.28-70.（飯島睦美，村上加代子，三木さゆり，行岡七重）
4.2. ビジョントレーニングでアルファベットはじめてドリル	共	2020年	東京書籍 北出勝也，村上加代子 （144ページ）	本書は幼児から中学校初学年の英語の文字―音対応習得を段階に身につけることを目的として作成されたワークブックである。アルファベットをしっかりと「見る」（視覚的認識する）ためのビジョントレーニングの要素を加え，小学生で誤りやすい書字練習のほか，左利きの児童向けのアルファベット大文字の書き順を掲載している点で新しい。文字と音の対応を１文字レベルから導入し，３文字単語を確実に音声化できるよう音声QRコードも作成。アルファベットの形状と音声の対応指導（大文字・小文字），四線指導，フォニックス指導，QRコードのスクリプト，監修を担当した。pp.16-pp.143.（北出勝也，村上加代子）
5.子どもたちが感じて考える！英語絵本を活用したCLIL	共	2019年	ジャパンライム 村上加代子監修・解説 （DVD　112分）	ユニバーサルデザインを意識したアプローチの１つとして絵本を用いたCLILでの英語指導を紹介。深い思考と学びへつなげることを目的とした工夫，声かけのコツなど。村上は企画および 授業を振り返ってQ&A （35分）で講師への質疑とまとめを担当。（諸木宏子，村上加代子）
6.目指せ！英語のユニバーサルデザイン授業	共	2019年	学研プラス 村上加代子編著 （159ページ）	「単語が覚えられない，読めない・書けない，カタカナ発音になる，英語が嫌い，思春期で活動にのってこない，文法がわからない」などのつまずきを取り上げている。障害のある・なしにかかわらず，児童生徒に観察される「困った場面」を取り上げ，気づきから始める５つのステップで子どものつまずきに合わせた適切な指導につなげることを目的とした。序章ではユニバーサルデザインの指導ポイントをまとめ，第一章では小学生を対象に聞く・話す・アルファベットを取り上げた。第二章では中学生を対象とした読む・書く・語彙・テストの作成や評価に焦点を当てた。第三章ではフォニックス編として，文字と音の対応指導方法を具体的に紹介している。村上は編・著者として本書の企画構成・編集全体に関わっている。 （村上加代子，山下桂世子 ほか７名）
7.読み書きが苦手な子どものための英単語指導ワーク	単	2018年	明治図書 （136ページ）	本書は英語圏の読み書き発達研究およびディスレクシア研究に基づいて音韻意識とフォニックス学習を段階的に学べるワークブックである。英語の読み書き発達で特に重要なのは英語の文字と音の対応スキルを習得する際に高度な音韻意識スキルが前提とされている点である。そのため文字がわかっても音読できない，綴りができない

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				という困難が生じやすい。本ワークブックは，フォニックスを知らない教員や親が使うことを前提に，音韻意識を手を使って簡単に練習できる方法を使って，２文字からマジックeまでの単語を５つのユニットで段階を追って習得できるよう工夫している。誰にでも音韻操作，文字操作が同時に練習できる点で革新的である。
8.特別支援教育すきまスキル　小学校上学年・中学校編	共	2018年	明治図書 青山新吾・堀裕嗣編 （160ページ）	本書は小学校上学年と中学生を担当する教員を対象として，躓き状況の背景要因，そのために知っておくべき知識とスキルを領域ごとにまとめている。村上の担当は文字を学習したばかりの児童生徒にとって，読み書きの難しさがどこにあるのか，また「努力」とは違う側面として言語認知的に習得が困難な音韻意識育成の重要性を具体例とともに紹介している。「英単語が覚えられない，英語の学習に苦労している生徒への対応ポイントは？」 pp.102-107, 「COLUMN 英語教育とディスレクシア」 p.138-139.（大野睦仁，　村上加代子ほか20名）
9.特別支援教育すきまスキル小学校下学年編	共	2018年	明治図書 青山新吾・堀裕嗣編 （176ページ）	本書は小学校低学年を担当する教員を対象として，躓き状況の背景要因，そのために知っておくべき知識とスキルを領域ごとにまとめた。村上担当は英語圏で10％以上と言われる高い割合で出現する読み書きの障害，ディスレクシアについて紹介している。英語圏だけの問題ではなく，英語を学習するすべての人にとって英語の読み書き習得は音韻意識の高度なスキルが要求される。そこに躓きを抱えると文字操作の正確性と流暢性の弱さとして現れやすい。 「英語教育とディスレクシア」pp.150-151.（大野陸仁，村上加代子　ほか21名）
10.英語の音韻意識アクティビティ	共	2018年	ジャパンライム 村上加代子監修・解説 （DVD　187分）	小学校から楽しめる英語の音韻意識活動を，理論と実践で紹介。多感覚を使ったゲームで「耳を澄ます」「違いに気づく」「操る」の３段階で音韻意識の操作スキル向上を試みた。村上は全体の構成企画に携わる。本編担当は ユニバーサルデザインの英語指導/音韻意識とは （33分）。 （村上加代子，チェン敦子）
11.アルファベット学習でつまずかせない！魔法のワークシート16	共	2018年	東京書籍 東京書籍英語編集部 https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2018/2018108095.htm （ワークシート16ページ，別冊指導書16ページ）	本ワークシートは小学校の文字指導で躓きやすい点に配慮した運筆，小文字，大文字の習得を目的としている。アルファベットは日本語とは異なり左から右への動きや類似の文字が多い。四線にうまく書けない児童もいる。こうした初期の躓きに段階的なステップを設けて「見える」「書ける」文字指導を目指す。村上はp.1から全ての活動案と指導書を執筆。共著者の北出勝也が視覚認知的な観点からのアドバイスを行った。（北出勝也，村上加代子）
12.（翻訳）ジュディット・コーモス，アン・マーガレット・スミス著 『学習障がいのある児童・生徒のための外国語教育―その基本概念，指導方法，アセスメント，関連機関との連携』	共	2017年10月	明石書店 竹田契一監修	村上は第8章「アセスメント」を担当 pp.212-239. （飯島睦美，村田美和，大谷みどり，築道和明，村上加代子，川合紀宗）
13.読み書きの苦手な子どもたちへの英語指導-理論と実践 （DVD）	単	2017年	ジャパンライム株式会社 （DVD　203分）	発達障害，学習障害のある児童生徒のつまずきに焦点を当て，英語学習における子供達の特性の理解促進を目的とした内容である。英語の躓きをどのように見取るか（アセスメント）,最も混乱しやすいアルファベット指導はどのように進めるか，どのような教材があるか，音韻意識の指導方法，最新のフォニックス理論と教材などを紹介している。「つまずきの理解とアセスメント」（82分），「アルファベットの指導」（52分），「音韻意識とデコーディング」（69分）
14.シリーズ・新時代の		2015年	あいり出版	本著は英語教育の現代的意義と課題について述べ，英語教育におけ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
学びを創る 外国語活動・英語科 授業の理論と実践			吉田晴世，加賀田哲也,泉惠美　編著 （234ページ）	る授業づくりの理論を「言語習得と言語処理」「カリキュラム開発」「評価」などの視点から考察した。村上は 「英語教育における特別支援:第4章英語教育における授業のユニバーサルデザイン，特別支援教育」を担当。pp.87-99. （樫本洋子，村上加代子 ほか）
2 学位論文				
3 学術論文				
1.英単語の語彙力と読み書きに差のある中学生の事例研究ー音韻意識と文字-音対応の関係に着目して(査読有り)	単	2024年	日本児童英語教育学会研究紀要（JASTEC），(43)，51-66.	本調査は英単語の読みにおいて、DRCモデル（二重経路モデル）における非語彙ルートの不活性が読み書き困難の要因となる可能性について、語彙力と読み書き能力に差が生じている中学生のケーススタディを通して検討を行う。現状把握として、URAWSS-Englishを用いた文字と音の対応習得状況、アルファベットの習得状況、英語の音韻意識を測定し、対象生徒の読み書きの困難さは音韻性の誤りが主であることを指摘。さらに、明示的・段階的な指導によって改善したことから、「英単語の読み書き困難」への効果的介入としてデコーディング領域の指導の必要性を明らかにした。
2.SVRモデルによる日本人中学生の英単語読み書き能力の分析 ：デコーディングと意味理解の差異に焦点を当てて（査読有り）	単	2024年	英語授業研究学会紀要（33）3-16.	本研究では、URAWSS-English課題および無意味語の綴り分析を用いて、日本の中学生153名を対象に英語の読み書き習得の下位分類を試みた。読解力とデコーディング能力に基づき、学習者を「読解の単純観（Simple View of Reading：SVR）モデル」（Hoover & Gough, 1990）に従って3つのグループに分類した。その結果、グループ間でデコーディング能力および綴りの誤りに有意な差が見られた。特に、グループB（デコーディング低群）およびC（困難群）の生徒はデコーディングに課題を抱えており、英語の音韻構造の処理に困難を示した。グループの割合はそれぞれ、良好群（A）は47.9%、デコーディング低群（B）は40.5%、困難群（C)は11.6%である。本研究は、今後の研究の必要性と、対象を絞った支援策の重要性を示すとともに、フォニックス指導および多感覚的アプローチの有効な介入手段としての可能性を示したものである。
3.オンラインで学ぶ音から文字、そして単語の読み書きへ（査読なし）	単	2023年5月25日	LD研究，32（2），pp.63-64	第31回大会特集「子どもたちのWell-Beingを育むーこころ、からだ、まなび」
4.つまずく学習者に関わる視点：なぜへの答えを求めて	単	2023年	ことばの科学研究（24）9-12.	
5.英語教育のユニバーサルデザイン実現に向けた課題	単	2020年	ドイツ語教育 Vol.24，pp.16-21.	ユニバーサルデザインの配慮をした外国語指導の観点から,日本語の音節感覚の英語学習時への影響と指導方法について概説した。中学校では 英単語が覚えられない という指導教育上の悩みが多いが，その背後にはデコーディングや音韻意識の弱さがある。日本語母語話者の音韻感覚が外国語学習時にリスニングだけではなく読み書きのつまずきとなるメカニズムについて説明し，学習障害の児童生徒だけを対象とした特別な指導ではなく，英語を学ぶすべての日本人にとって わかりやすい 英語の初期指導について提案した。
6.読み書き困難のある小学生へのアルファベット・音韻意識・単語読み指導	単	2018年12月	神戸山手短期大学紀要 Vol. 61，pp.39-53.	本調査は，通常学級に通う小学4年生児童の事例報告である。一年間のアルファベット文字，英語の音韻意識，基本的な文字と音の対応指導を行った。指導はシンセティック・フォニックス理論を用いて音韻意識指導，文字指導からはじめ，段階的なフォニックス指導へと進んだ。その結果，事後テストでは困難が大きく改善されていることが報告された。読み書き困難がある児童は英語学習ではさらに躓くことが懸念されている。アセスメントなどの科学的根拠に基づく丁寧な指導が必要である。
7.Introduction of Phonological Awareness to Japanese Elementary School	共	2017年12月	神戸山手短期大学紀要 Vol.60，pp. 57-68	本調査は日本語母語話者への英語音韻意識指導に関する音節指導の経過報告である。音節指導実施からおよそ1年後の定着度を調べるため，小学3年生（当時2年生）を対象に，音節課題を行った。その結果，定着度課題が1年前の課題結果よりも向上していることが示された。一方，at-risk児童（下位9%）は定着度テストのスコアが低い傾

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Students (2)-The explicit instructions in syllable awareness and its achievement after a year				向が見られた。このことから，多くの児童は英語の音節感覚を身につけ，その後も英語活動を通してスキルを向上させている一方で，定着により時間をかけねばならない児童がいることが明らかになった。 （村上加代子，チェン敦子）
8.小学生の英語の音韻意識を育てる試みーライムと音節に焦点をあてて （査読有）	共	2017年9月	日本児童英語教育学会(JASTEC)研究紀要 Vol.36，pp.1-14.	本研究は日本の児童の音韻意識の現状把握および指導的介入による音韻意識の変化を分析し，日本語母語話者の児童が躓きやすい課題の特定を目的とした。公立小学2年生を対象として①音韻意識課題を用いたライムと音節認識②指導効果の検証を行った。結果，指導前はライム,音節ともにモーラ音節の影響が大きいことが確認された。さらに，指導によって音韻意識の育成が可能であることが示唆された。村上は論文計画，構成，執筆全般を担当した。（村上加代子，宮谷祐史，チェン敦子）
9.学習障害（LD)のある中学生へのフォニックス指導実践報告（査読有）	単	2016年12月	英語授業研究学会紀要Vol.25，pp. 193-208.	学習障害（LD）のある中学1年生2名を対象とした英語の読み書き指導の実践報告である。対象生徒は通常学級に在籍し，知的発達は良好だが読み書きに困難を抱えていた。文字と音韻操作を重視するシンセティック・フォニックス指導を実施した結果，両名とも読みスピードとデコーディング正答率の向上が確認された。WISC-IV心理検査のほか，英語・日本語でのアセスメントに基づき生徒の強み・弱みを分析し，英語指導で確認された誤りを認知的側面から検討を行った。
10.大学生の英語の音韻意識スキルと英語習熟度・語彙に関する検討	単	2016年12月	神戸山手短期大学紀要 Vol. 59. pp.51-63.	読み書き習得において音韻意識が英語の習熟度にも影響を与えるという先行研究に基づき，大学生を対象とした音韻意識と英語の習熟度に関する調査を実施し，結果を分析した。音韻意識課題と英語習熟度課題の直接的な影響力は認められなかったが，単回帰分析では音韻意識は語彙力と強く関連していることが示された。このことから英語圏と同様に音韻意識が英語熟達における背景要因の一つである可能性が示唆された。
11.こころと言葉の発達から見る小学校英語-文のしくみへの気づき ・音声から文字へ・CLIL （査読有）	共	2016年3月	中部地区英語教育学会紀要 Vol.45，pp.313-315.	本プロジェクトの目的は，第２言語習得理論，およびヨーロッパやアジアの英語教育の現状と課題から，EFLにおける日本の小中学校で可能な小中連携の英語指導についての研究・実践である。村上はリテラシー習得における 音声から文字 を担当。調査では公立小学校の２年生約100名を対象に音韻意識指導を実施したpre-postテストを実施したところ，テストの正答率は大きく向上した。日本語のモーラ音節（CV）を基準とする児童らが，単語の頭子音（C）と母音（V）と切り分けて捉えることの難しさが確認された。 （柏木賀津子，山野有紀，村上加代子，伊藤由紀子）
12.外国語学習困難研究から見た英語教育における特別支援の課題 （査読有）	単	2015年12月	英語授業研究会紀要 Vol.23，pp.3-15.	米国での外国語学習困（FLLD）に関する先行研究を中心に，FLLD研究が始まった当時の社会的背景や外国語教育でのLD生徒への指導支援についてまとめ,日本の英語教育における学習困難者の存在について指摘した。外国語の学習困難は，生得的な認知特性の弱さだけでなく，対象となる言語の特性も関係する点について指摘し，英語を学習する日本語母語者にとって,学習障害の診断がなくとも音韻意識等に生まれつきの弱さがあればLD症状が表出しやすい点について日本の事例を紹介した。
13.英語の学習初期における読み書き指導のあり方の検討ー基礎的な力としてのデコーディングと音韻意識スキル獲得の必要性について	単	2015年12月	神戸山手短期大学紀要 Vol.58，pp. 57-73.	中学生の多くが 単語が読めない・書けない といった基礎的なスキルが獲得できず躓いている。認知心理学的観点から音韻意識やデコーディング指導の重要性について検討を行なった。日本の英語教育では両領域の指導がほとんど行われておらず，このことが英語圏のディスレクシア同様の躓き状態として現れていると推察した。日本の児童生徒に必要な音韻意識の位置付けや指導の導入時期について提案した。
14.英語授業における特別支援に関する調査（査読有）	共	2014年7月	小学校英語教育学会紀要 Vol.15，pp.142-154.	文部科学省による調査で通常学級でも発達障害の疑われる児童生徒が6％以上在籍していることが報告された。しかし科目ごとに症状の表れ方や指導対応は異なることから，公立中学・高校に在籍する英語科目担当教員に特別支援の理解や気づきに関するアンケート調査を実施し，結果を報告した。最も多い躓きは読み書きの領域にある

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				ことがわかった。村上はアンケート作成およびとりまとめ，分析，執筆全般を担当した。 （加賀田哲也，村上加代子,伊藤美幸，川上育臣，森田琢也，チェン敦子）
15.12. 日本の英語教育におけるディスレクシア生徒に関する一考察	単	2012年12月	神戸山手短期大学紀要 Vol.55，pp. 67-76.	読み書きに障害のある出現率は国によって異なり,言語と使用文字との関連が指摘されている。日本の通常学級に通うLDの診断があるあるいは疑いのある生徒の事例を紹介し，日本と海外での読み書き障害に関する特性から,日本で英語を学習する学習者の読み書き困難の表れ方と英語圏のディスレクシアを比較し，類似点を指摘。その要因についてもディスレクシアと同様に音韻意識やデコーディングの弱さに起因する可能性について述べた。
16.自律学習を目指した学習カウンセリング（査読有）	単	2012年3月	神戸山手短期大学紀要 Vol.55，pp. 67-76.	読み書きに障害のある出現率は国によって異なり,言語と使用文字との関連が指摘されている。日本の通常学級に通うLDの診断があるあるいは疑いのある生徒の事例を紹介し，日本と海外での読み書き障害に関する特性から,日本で英語を学習する学習者の読み書き困難の表れ方と英語圏のディスレクシアを比較し，類似点を指摘。その要因についてもディスレクシアと同様に音韻意識やデコーディングの弱さに起因する可能性について述べた。
17.自律学習を目指した学習カウンセリング（査読有）	単	2012年3月	JACET第二次授業学研究（特別委員会編） pp. 165-166.	本論文は，大学のTOEIC e-ラーニングクラス受講生を対象とし，学習カウンセリングによって自ら学習のPDCAサイクルを確立できるよう試みた実践報告である。大学生でも苦手な 振り返り 計画の再考を,個別カウンセリングを通して言語化することで学習のうまくいかないポイント等の気づきや改善が得られるようにした。その結果，生徒の学習への意識および学習時間の変化が確認された。
18.14. 個別カウンセリングによる自律的学習者育成の試み ： 英語授業実践報告(2)	共	2011年12月	神戸山手短期大学紀要 Vol.54，pp. 125-135.	本論文は平成22年の学習ストラテジーアンケート調査を継続し,学習者の自習学習の傾向について現状把握と分析を行った結果報告である。カウンセリング時間の充実を中心に，いくつかの点で改善を行った。社会的学習と同義に用いられることの多いモデリングを取り入れ，モデリングによる学習者の学習成果，学習に対する姿勢の変化を考察した。モデリングに関するアンケートでは，ほとんど学習者にモデリングによる内発的モティベーションの向上が見られた。村上はアンケートの改善および考察を担当した。 （村上加代子，水本有紀）
19.読み書きが苦手な児童への英語指導の工夫 ： 研究ノート	単	2011年12月	神戸山手短期大学紀要 Vol.54，pp. 113-123	LD児童生徒を対象とした教室での英語指導の工夫および取り組みについて紹介した。日本における学習障害（LD）のある児童生徒への英語指導事例を紹介した。英語学習においては他の科目と異なる躓きが生じやすい。視覚認知や聴覚認知に困難がある場合に指導で留意する点および教材の工夫などについて具体例を示した。また個別の特性に合わせた支援のあり方について提案した。
20.個別カウンセリングによる自律的学習者育成の試み：英語授業実践報告(1)	単	2010年12月	神戸山手短期大学紀要Vol.53，pp. 111-122.	本調査は勤務校の大学生を対象に学習者の英語学習動機，学習ストラテジー，自宅学習内容について，個別e-ラーニングと学習カウンセリングによる介入で変化が生じるかを確認することを目的とした。学期開始時と終了時のSILL結果比較では，ほぼ全ての学習ストラテジー項目において数値の向上が見られた。振り返りアンケートからは，カウンセリングが学習者の自宅学習の時間の増加や計画的な学習に対する意識の変化に影響したことが確かめられた。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.学習者の多様性の理解とこれからの指導の在り方ー自分らしさを発見できる教科の学び	単	2024年7月14日	小学校英語教育学会（JES）年次大会	（基調講演）障害の社会モデルと世界から見た日本の特別支援教育の在り方。教育的な配慮と支援について、ディスレクシアへの対応。「聞く」力を育成することの大切さ。合理的配慮の例について。
2.聴き取りの苦手な子どもへの英語教育からみた音韻指導	単	2024年4月11日	西宮夜の会主催	（講演講師）「聴き取り」が苦手な英語学習者の背景要因について。英語圏の音韻意識の発達と日本人の英語の音韻意識の特徴。具体的な指導実践例の紹介。
3.(支援を要する)児童生徒への英語の読み書き指導 －英米での	単	2024年1月27日	神奈川大学英語英文学科2023年度「英語教育講演	講演講師

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
dyslexia と子ども達への指導もふまえて			会」	
4.音の指導ってどうするの？小学生・中学生の耳がよくなる「聞き方」の指導	単	2023年9月10日	LSA（学習支援員）養成講座	民間の特別支援教育者養成講座参加者向けの、英語の「聞く力」養成について・講演
5.個に応じた英語指導を目指して～ユニバーサルデザインの授業づくり	単	2023年8月6日	英語授業研究学会第３４回全国大会基調講演	講演
6.英語の読み書き困難児童生徒の理解と支援	単	2023年3月25日	Light It Up Blue MUKOJO!2023市民公開講座「局限性学習障害・発達性ディスレクシアの理解と支援」	講演
7.小学校からはじめる英語の学び	単	2022年11月3日	NHKハートフォーラム 発達障害の子どもへの理解と支援～小学校英語の学び方～	一般講演 英語が苦手にならないために、どのようなスキルを身につけることが大切か。具体的に小学校から取り組める活動などを紹介。
8.英単語で躓く児童生徒への指導のヒント	単	2022年11月1日	第4回S.E.N.S.年次大会・北海道	講演
9.個に応じた英語学習のスキルと方略を学ぶ～英語ができないのはなぜか	単	2022年9月9日オンライン	LDセンター講演会	講演
10.外国語科に学びにくさのある児童生徒の支援	共	2021年10月16日	広島大学教育ヴィジョン研究センター 2021第95回定例オンラインセミナー「教科教育学・心理学・日本語教育学の視点からインクルーシブな学びを考える(5)	村上加代子，山下桂世子
11.ユニバーサルデザインの視点を取り入れた英語教育	単	2021年10月9日	第189回国治研セミナー	講演 ユニバーサルデザイン、インクルーシブ教育の定義から、英語教育でのユニバーサルデザインが目指すものについて
12.外国語教育におけるユニバーサルデザインの現状とニーズ	共	2021年8月22日	LET第60回全国大会全体シンポジウム	村上は「英語の読み書きに困難のある中学生への指導」の話題提供者 （雪丸尚美，村上加代子，佐藤良子）
13.見逃していませんか？こういう学習者	単	2021年6月19日	LET関東支部第145回（2021年度春季）	研究大会基調講演（オンライン）
14.ユニバーサルデザインを意識した英語の読み書き指導について	単	2019年12月8日	英語教育ユニバーサルデザイン研究会第一回大会	基調講演（於早稲田大学）
15.教室のあの子に届け！発達障害のある子どもと英語学習	単	2019年10月18日	小学校英語準備講演会	基調講演（於ナレッジキャピタルカンファレンスルーム）
16.英語の音韻意識ワークショップ一音から文字につなぐ基礎力をつける	単	2019年8月6日	外国語メディア学会/International Association for Language	基調講演（於早稲田大学）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
			Learning Technology共催国際大会（FLEAT）	
17.英語教科教育のユニバーサルデザイン化に向けて一現状の課題と今後の方向性	単	2019年6月15日	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会設立記念講演会	基調講演（於大阪商業大学）
18.発達障害のある児童生徒の英語学習における課題	単	2019年5月12日	JACET関東支部共催講演会2019年度. JACET関東支部・東洋大学共催	基調講演（於東洋大学）
19.英語学習に困難を抱える児童生徒への指導	単	2019年2月23日	平成３０年度日本学校心理士会愛媛支部第２回研修会	講演（於愛媛大学）
20.発達障害のある子どもの英語教育～英語学習をどう考え，どう教えるのか～	単	2018年5月26日	大阪医科大学LDセンター主催	講演（於大阪医科大学）
21.特別支援からユニバーサルデザインへ一英語教育で目指したいこと	単	2018年3月31日	外国語授業実践フォーラム主催	講演（於関西大学千里山キャンパス岩崎記念館）
22.LDがあっても英単語の読み書き習得をあきらめないで～躓き回避を目指した音と文字指導のステップ	単	2018年3月10日	静岡市静岡医師会学習障がい児支援委員会主催講演	講演（於静岡市静岡医師会館）
23.英語の読み書きが困難な児童生徒への指導	単	2018年2月24日	JACET教育問題研究会主催研究会	講演（於立命館大学衣笠キャンパス）
24.英語教育における特別支援の現状とこれからの課題一躓かせない指導のために	単	2018年2月17日	大学英語教育研究会（DUETA）	講演（於獨協大学）
25.LD児の英語学習支援	単	2018年2月3日	外国語メディア学会（LET）主催関西支部早期英語教育研究部会特別講演会	講演会
26.英語教育における特別支援教育の在り方一ディスレクシア指導に焦点をあてて	単	2017年7月29日	第17回小学校英語教育学会兵庫大会	講演
27.発達障害のある子どもが英語とつきあうには	単	2017年6月24日	大阪医科大学LDセンター研究開発部講演会	講演（於大阪医科大学）
28.英語学習のつまずきを考える～困難に寄り添う支援のあり方	単	2016年12月3日	宮崎大学国際連携センター/語学教育センターセミナー	講演（於宮崎大学創立330記念交流会館）
29.LD児童生徒への指導からみる英語入門期読み書き指導の問題点	単	2016年10月14日	大東文化大学英語教員志望者対象特別講演会	講演（於大東文化大学）
30.英語が苦手な生徒への指導の工夫一音から文字へつなげる理論と実践	単	2016年5月22日	リンクス学習サポート読み書き支援講演会（第２回）	講演（於リンクス学習サポート教室）
31.英語の読み書き習得へのステップに向け	単	2016年3月12日	外国語学部英米語学科ELM主催講演会	講演（於明海大学）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
て-音韻意識とデコーディング				
32.英語教育における特別支援の在り方	単	2016年1月23日	英語授業研究会関西支部第240回例会	講演（於関西学院大学）
33.英語教育と発達障害	単	2016年1月6日	mpi大阪研究会	講演（於大阪生涯学習センター梅田）
34.英語の読み書きに必要な音って？ー音韻意識を育てる	単	2015年12月6日	小学校英語教育学会大阪支部，英語教育ユニバーサルデザイン研究会講演会	基調講演（於大阪商業大学）
35.音韻意識から文字認識への指導	単	2015年2月5日	大阪教育大学	講演（於大阪教育大学天王寺キャンパス）
36.特別支援を生かした指導の考え方	単	2012年12月21日	京都朱雀高校教員相談協議会研修講演	講演（於京都朱雀高校）
２．学会発表				
1.学び方を学ぶ、ともに学ぶー自立的な学習者の育成を目指してー	共	2024年11月10日	日本英語教育ユニバーサルデザイン研究学会　第５回全国大会（武庫川女子大学）	シンポジウム討論： 川合紀宗（広島大学）、村上加代子（武庫川女子大学）、森田琢也（大阪教育大学付属高等学校）
2.中学生における英語読み書き困難のパターンと特徴の解明ーデコーディングと意味理解の視点から	単	2024年11月10日	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会第５回全国大会（武庫川女子大学）	自由研究発表　　Simple View of Readingモデルをふまえた中学生の英単語の読み書き習得状況の分類について報告を行った。
3.英語の読み書き学習初期における習得の困難さへの理解を深めるー音韻意識と英単語の習得段階をふまえた支援とテストバッテリー開発	共	2024年10月19日	一般社団法人日本LD学会第３３回大会　自主シンポジウム（J4-05）（神戸国際会議場）	企画・司会：河合裕美、指定討論：村上加代子、発表：河合裕美・大谷みどり・縄手雅彦
4.英語学習におけるつまづきの実態調査ー大学生に対するレトロスペクティブスタディー	共	2023年7月22日	小学校英語教育学会	松宮奈賀子(広島大学)，川合紀宗(広島大学)，中山晃(愛媛大学)，大谷みどり(島根大学)，村上加代子(武庫川女子大学)
5.Development of a Test for Early Detection of English Learning Difficulties of Elementary School Students in Japan	共	2023年7月18日	AILA 2023 20th Anniversary Congress in Lyon	Studies of Japanese children with English learning difficulties have indicated that they also have difficulties in learning their native language. In addition, English education in Japanese elementary schools is mainly conducted by teachers who are not licensed to teach English, which tends to delay effective intervention for students with learning difficulties. The purpose of this study is to develop an English Learning Difficulty Check Test to predict problems in the early stages of reading comprehension. The order of the symposium will be: 1. a survey to determine whether learning difficulties are due to unlearned words or cognitive characteristics; 2. a test developed to identify children with learning difficulties in English listening comprehension; and 3. a survey based on the idea that weak phonemic awareness has been identified as a major factor in dyslexia, we report the results of surveys of the current status of phonemic awareness and letter recognition in students

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
6.これでいいのか？ー日本の英語教育と特別支援教育ー	単	2023年3月5日	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会第２回研究会（オンライン）	英語教育における二極化の問題を取り上げ、英語教育改革が見落としている「読み書き指導」と「ディスレクシア」への対応について提案。また、特別支援教育との連携における課題を指摘した。
7.英単語で躓く児童生徒への指導のヒント	単	2022年11月1日オンライン	第4回S.E.N.S.年次大会・北海道	
8.英語の読み書きが困難な中学生2事例への指導実践報告	共	2022年10月29日	一般社団法人日本LD学会第31回大会（京都）ポスター発表	
9.特別支援教育における新たな学びのスタイルーwell-beingとICTの活用ー	共	2022年10月29日	一般社団法人日本LD学会第31回大会（京都）大会企画シンポジウム	司会者，牛山 道雄，指定討論，竹下 盛，話題提供者，鈴木 秀樹，氏間 和仁，村上 加代子，青木 高
10.「つまずく」学習者に関わる視点-「なぜ」への答えを求めて	単	2022年10月16日	ことばの科学会オープンフォーラム2022（第14回年次大会）	
11.URAWSS-Englishでみる英語の躓き	共	2022年8月2日	村上科研「共生社会を目指す教育の実現のための学習障害児童への英語学習支援の統合的研究」主催オンライン研究報告会	URAWSS-Englishを用いた中学生の英単語の読み書きスキルと語彙の知識の差についてのアセスメント方法や実践報告事例を報告した。
12.小学校高学年の英語文字学習における躓きの視覚化の試み～文字ー音対応・語彙・音韻意識の多角的分析	共	2022年7月18日	小学校英語教育学会	科学研究「共生社会を目指す教育の実現のための学習障害児童への英語学習支援の統合的研究」の報告として、小学５年生を対象としたアルファベット大文字、小文字の読みと書き取り、語彙、音韻意識スキルをテストし、その結果をチャート化して個別のニーズを視覚化する試みを報告した。
13.英語にカナをふる指導について（小学校，中学校，発達支援の立場から）	共	2022年3月6日	言語エキスポ(オンラインシンポジウム）村上加代子，醍醐路子，黒木愛	外国語として英語を学ぶ日本人にとって英語の音韻感覚を自然に身につけるのは難しい。特に英語音声を日本語音節に置き換えて捉える傾向はこれまでも日本人の発音や音韻意識に関わる調査で繰り返し指摘されてきた。カタカナはまさに「英語を日本語で聞く耳を育てる」ことにつながる危険性をはらんでいる。カタカナを読み書き学習で多用することが英語学習の長期的なつまずきの原因となる可能性について,英語の読み書き習得と特別支援教育の２つの観点から述べた。 カタカナの使用は最小限にし,文字が読めるようになるまでのスポット的なツールとして用いることが望ましい。「カナでも読めればいい」「カタカナでも仕方がない」という指導の先に,英語が読める・書けるようになるゴールが見えないのが問題である。
14.speedから/p/を抜くと「スード」になるのはなぜか 日本語音節感覚が英語の音素操作に与える影響に関する考察	単	2021年12月4日	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会第3回研究大会 自由研究発表	英語圏のディスレクシア研究では，音韻意識の獲得が読み書きの習得に必須であることが知られている。いっぽう日本人学習者は英語を日本語音節（モーラ）で認識しており、（アレン，2000ほか）日本語音節が小学生の音素操作に影響していることなどが報告されている（池田，2018）。特に既に躓いている学習者は英語音素をどのように認識し、文字と対応させているのだろうか。本調査では英語学習困難な３名の事例を対象に英語の音韻意識や文字ー音対応の状態を確認し，日本語音節の影響について検討を行った。その結果事例全員に子音に母音を追加する傾向が観察され、音素削除課題では，子音が連続する単語（C1C2V1C2）ではC２とV１がペアで削除される現象が確認された。
15.Homeroom Teachers' and English Language Teachers' Perspectives about Learners'	共	2021年11月19日	American Speech-Language-Hearing Association (ASHA) Convention,	Nagao Matsumiiya, Norimune Kawai, Midori Otani, Akira Nakayama, Kayoko Murakami

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Difficulties in Learning English in Japan			Poster presentation	
16.英語学習における児童の躓きに対する教師の認知	共	2021年10月9日	小学校英語教育学会全国大会	中山晃，大谷みどり，村上加代子，川合紀宗，松宮奈賀子
17.英単語指導にどう取り組むか ー小中間のギャップを埋めるためにできること	共	2021年6月19日	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会（第３回研究会）	村上加代子，山下桂世子
18.英単語指導にどう取り組むか―小中間のギャップを埋めるためにできること	単	2021年2月20日	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会（第３回研究会）（オンライン）	発達障害の児童生徒はどの学校，どの教室にも在籍しており知的な遅れは認められない。しかし英語学習では大きくつまずきがちである。その背景の認知的な特性およびつまずきへの対応は急務である。発達的な観点とシンセティック・フォニックスの効果の観点から読み書き指導のあり方について発表した。 村上加代子，　山下桂世子
19.中学生の英単語聴写課題の回答分析	単	2020年12月6日	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会第一回研究大会（オンライン）	群馬県の公立中学校１校を対象に音韻意識とフォニックスを指導した前後の英単語聴写課題結果の報告を行った。指導前は無回答やローマ字傾向，不要な文字の追加や削除等の誤りが多く見られたが，指導後は母音・子音の置き換えなどに集約される傾向があることを報告し，音韻意識操作練習の影響を指摘した。
20.小学生を対象とした英語のつまずき調査テストの開発について	共	2020年10月25日	言語エキスポ2020（オンライン）	小中連携を視野にいれ，これから小学生の基礎リテラシー育成のために教師がどのような点を意識して指導すれば良いのか。本発表では英語圏のリテラシー検査から日本人母語話者の特徴を鑑みて，新しい調査テスト開発の必要性とそのポイントについて報告した。 村上加代子，村田美和，酒井志延
21.中学生への効果的な英単語読み書き指導の工夫	共	2020年10月11日	日本LD学会第29回大会（兵庫）（オンライン）	「英単語を覚えるのが苦手」は英語学習上で最も良く聞かれる悩みである。現状の指導法のどこにつまずくのかを読み発達の観点から分析し，効果的な指導法についてICT活用，フォニックス指導，教科書音読など実践に基づいた取組を報告した。 企画/司会者：村上加代子，指定討論者：品川裕香；話題提供者：村上加代子，小幡理恵，村田美和，大野淳子
22.進路を拓く合理的配慮提供の実践	共	2020年10月11日	日本LD学会第29回大会（オンライン）	合理的配慮の実施が成功した例，不成功であった例を事例に基づいて報告した。村上は英語のアセスメントに基づき 時間延長 が妥当と考えられる中学生について，教員をたらい回しにされ保護者が諦めざるを得なかった事例を報告。 納富恵子，中山健，西山久子，　村上加代子
23.読み書き困難児童生徒の英語の音韻意識調査報告（中間報告）	単	2020年7月25日	ことばの科学会2020年度7月度研究例会（オンライン）	ディスレクシア研究では英語の読み書き困難は音韻意識獲得が不十分であることが主たる要因として考えられている。村上は１２名の英語の読み書き困難 を訴える中学生にSPAT-R（標準音韻意識テスト）を実施し，その結果を報告した。英語圏の児童とは異なり日本語母語の影響が確認されたほか，分解や混成スキルの弱さが認められた。しかしこれらの誤りは一般的に日本人学習者すべてにも当てはまる可能性を指摘。
24.ストーリー,文字,ユニバーサルデザインの視点を取り入れたCLILとは	共	2019年11月17日	日本CLIL教育学会西日本支部第二回大会（於大阪教育大学）	小学校でのアクティブラーニング活動の1つとしてCLILを取り上げ，ユニバーサルデザインの視点からCLILの活動を分析した。 諸木宏子，村上加代子
25.中学校通常学級における学習に難しさのある生徒に対する授業の工夫と支援（２）	共	2019年11月10日	一般社団法人日本LD学会第27回大会（於よこはまみなとみらい）	村上は 英語の音韻意識と単語の読み書き指導プログラムの開発 として，群馬県の中学校4校を対象とした音韻意識とデコーディング教材開発の成果について発表した。 企画/司会者：飯島睦美，話題提供者：村上加代子，山野有紀，村田美和.
26.ユニバーサル・デザインの授業を極める・広める	共	2019年11月9日	一般社団法人日本LD学会第27回大会（於よこはまみな	村上は 英語教育のユニバーサルデザインの授業について を報告。英語教育に躓く背景およびLDのある小学生の事例を紹介し,通常学級でのユニバーサルデザイン化について紹介した。 企画・司会：宇野宏幸；指定討論者：阿部利彦；話題提供者：和田

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
			とみらい）	孝子，柳原伸哉，村上加代子
27.小学校外国語活動早期化・英語教科化を見据えた実践的指導～特別支援教育の観点から	共	2018年11月24日	一般社団法人日本LD学会第27回大会 （於朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター）	村上は 英語教育における読み書き指導の困難―音韻意識に焦点をあてて として，読み書きに必須と言われる英語の音韻認の獲得が日本人母語話者には難しいことを指摘し，指導の重要性と方法について提案した。 企画者 入山満恵子；話題提供者：村上加代子，山野有紀，加藤茂夫，原恵子，藤堂栄子
28.11. 小学校での英語学習を経た子どもたちへの中学校英語教育の可能性を考える	共	2018年11月23日	一般社団法人日本LD学会第27回大会 （於朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター）	村上は 中学生への音韻意識と読み書き指導支援 として，中学生の初期段階でどのような領域につまずきが生じやすいかについて報告した。 企画/司会者：飯島睦美；話題提供者：村上加代子，山野有紀，村田美和
29.小学生への音素意識指導とその効果の検討	共	2018年10月21日	JASTEC第28回秋期研究大会 （於成蹊大学）	本調査は公立小学校における小学生児童の音韻意識の実態把握と音韻意識プログラムの開発を目的とした3年間プロジェクトの3年目の音素指導 についての報告である。指導の前後で児童のテストスコアが有意に向上していることが確認された。 村上加代子,宮谷祐史，チェン敦子
30.通常学級に通う学習障害の疑われる 4 年生への読み書き指導～児童の躓きと認知的な弱さに配慮した指導の工夫	単	2017年10月22日	JASTEC第37回秋期研究大会 （於家政大学）	読み書きに苦手感のある小学４年生にアルファベット，音韻意識，文字（書字）テストを行い，背景要因や効果的な指導について検討した。指導の後すべての領域で向上が確認された。アルファベットの文字指導を丁寧に行う必要性について報告した。
31.小学生への音韻意識指導―音節意識の学年間の比較調査	共	2017年10月22日	JASTEC第37回秋期研究大会 (於家政大学)	本調査は公立小学校における小学生児童の音韻意識の実態把握と音韻意識プログラムの開発を目的とした3年間プロジェクトの2年目の報告である。村上は本調査の企画，分析および総括を担当した。 村上加代子，宮谷祐史，チェン敦子
32.日本語で読み書きの困難がある児童生徒への効果的なフォニックス指導	共	2017年10月7日	一般社団法人日本LD学会第26回大会 （於宇都宮大学）	村上は 軽度知的障がいのある中学生へのフォニックス指導事例―文字操作と音韻操作指導に焦点をあてて を発表。軽度の知的障がいのある中学生を対象にシンセティックフォニックス理論に基づく単語の読み指導を行った事例報告を行った。 企画・司会：藤堂栄子；話題提供者：山下桂世子，丸山敦子，村上加代子
33.小中連携の英語とCLIL － Focus on Form・Literacy Skill を取り入れて－	共	2017年8月19日	全国英語教育学会第43回島根研究大会 課題研究フォーラム （於島根大学）	海外の先進例に学びながら,小学校と中学校の両方で，文法・内容・思考を切り離さない英語指導はどうあるべきかについて探究した。 村上は近年英語圏の教育現場でも広く用いられているSimple View of Readingの読みモデルに基づき音素認識の操作までをフォニックス前段階として育成する必要性と指導方法について提案した。 コーディネーター兼提案者：柏木賀津子，提案者：山野有紀，村上加代子，伊藤由紀子，李静香
34.小学生への音韻意識指導の試み ―音節意識指導と4ヶ月後の定着度について	共	2017年7月30日	第17回小学校英語教育学会（JES）兵庫大会 （於神戸外国語大学）	本研究では音韻指導の段階的指導に取り組んだ。初年度の事前テスト，事後テストよりも定着度テストの成績が向上していた。一方で課題困難児童の存在を指摘した。村上は本調査の企画，分析および総括を担当。 村上加代子，チェン敦子
35.言語習得からみる小中連携の英語指導―文の仕組みへの気づき・音声から文字へ・CLIL	共	2017年6月25日	第47回中部地区英語教育学会長野大会：課題別研究プロジェクト発表 （於信州大学）	村上は「小学校外国語活動における音から文字の育成」として英語の音節やライムへの気づきを促す指導を提案した。 コーディネーター・提案：柏木賀津子; 共同発表者: 伊藤由紀子，李静香，村上加代子，山野有紀，犬塚章夫，安達理恵，小林裕美子
36.発達障害の生徒への英語の読み書き指導～ つまずき傾向の把握と指導の工夫	共	2016年11月20日	一般社団法人日本LD学会第25回大会 （於パシフィコ横浜）	自主シンポジウム，通常学級に在籍する自閉症スペクトラム症，学習障害，ADHDの児童生徒についての指導事例を紹介した。 村上は企画・司会を担当。 企画・司会：村上加代子；話題提供者：佐藤良子， 櫛山桐加，吉田真樹子；指定討論者：飯島睦美
37.通常学級に在籍する読み書き困難の小・中学生2事例への英単	共	2016年11月19日	一般社団法人日本LD学会第25回大会	LDの疑いのある小学4年生と中学3年生の英語読み指導事例について報告した。 村上は発表企画発案，監修,小学生の事例発表を担当。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
語読み指導 ～音韻意識とデコーディング指導を中心に			（於パシフィコ横浜）	村上加代子,吉田真樹子
38.こころと言葉の発達から見る小学校英語―文のしくみへの気づき・音声から文字へ・CLIL	共	2016年6月25日	第45回中部地区英語教育学会和歌山大会，課題別研究プロジェクト（於和歌山大学）	村上は「小学校で身につけたい音から文字への指導」を担当。小学校外国語活動における音から文字の育成として英語の音節やライムへの気づきを促す指導を提案した。 コーディネーター・提案：柏木 賀津子；共同発表者: 村上加代子，山野 有紀，伊藤由紀子
39.LDの疑われる小学生へのアセスメント	単	2016年4月24日	英語ユニバーサルデザイン研究会第６回定例勉強会（於神戸山手短期大学）	英語圏のディスレクシア研究に基づき日本人学習者の英語での躓きを予測するアセスメント方法について提案した。
40.英語学習における中高生の困り感―教員を対象とするアンケート調査から	共	2015年8月9日	英語授業研究会第27回全国大会（於大阪樟蔭女子大学）	中学・高校の英語教員を対象としたアンケート調査の結果を報告した。村上は調査全般を監修した。 村上加代子，森田琢也
41.こころと言葉の発達からみる小学校英語―文のしくみへの気づき・音声から文字へ・CLIL	共	2015年6月27日	第45回中部地区英語教育学会和歌山大会，課題別研究プロジェクト（於和歌山大学）	村上は「音から文字へ」を担当し，小学校での実践報告を行った。 コーディネーター・提案：柏木 賀津子；共同発表者: 村上加代子，山野有紀，伊藤由紀子
42.中高での英語教育における特別支援の取り組みと工夫	共	2014年11月24日	一般社団法人日本LD学会第23回大会（於大阪国際会議場グランキューブ）	現場教員からの中学，高校での英語の躓き事例をもとに,どのような点に注意すべきか，今後の早期発見早期対応はどうあるべきかを議論した。企画・司会者：村上加代子，；話題提供者：森田琢也，遠藤千里，淡路佳昌；指定討論者: 加賀田哲也
43.特別支援教育と小学校英語教育に関する研究	共	2014年7月27日	小学校英語教育学会全国大会（関東学院大学）	小学校の外国語活動現場で落ちこぼれがちな児童について事例と指導例を報告した。 加賀田哲也，村上加代子，森田琢也，川崎育臣，伊藤美幸，杉田和也
44.クラスにこんな子いませんか？	共	2012年7月28日	新英語研究会第49回全国大会	中高生の英語授業内での躓き事例について報告した。 斉藤理一郎，村上加代子
45.ビジョン・トレーニングを取り入れた英語活動	単	2012年2月12日	国際治療教育研究所第137回セミナー『学習機能を高めるビジョン・トレーニング』（於大阪アカデミア）	アルファベットの読み書きが苦手な児童を対象として，ビジョントレーニングで見え方が改善した事例報告を行った。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.中学生を対象にした英単語で躓いている学習者を発見する方法のワークショップ	共	2022年9月30日	村上科研「共生社会を目指す教育の実現のための学習障害児童への英語学習支援の統合的研究」（研究課題の業績ID：29262449）	2022年8月に開催した「中学生を対象にした英単語で躓いている学習者を発見する方法のワークショップ」内容を全36ページの研究成果報告書としてまとめ、PDF化して公開した。 村田美和「URAWSS-Englishから学習方法を考える」p.4-24. 村上加代子「URAWSS-Englishで見る子どもの英単語のつまずき」pp.25-35. https://padlet.com/731161/xqrlik0z2ctaldw0/wish/2315409214
2.URAWSS-ENGLISHでみる英語の躓き	単	2022年8月2日オンライン	中学生を対象にした英語で躓いている学習者を発見する方法のワーク	村上科研「共生社会を目指す教育の実現のための学習障害児童への英語学習支援の統合的研究」（課題番号：29262449）の中間報告である。中学生を対象にした英語で躓いている学習者を発見する方法のワークショップとして、現職教員を対象にURAWSS-Englishの使用

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			ショップ（村上科研主催）	についてオンライン講座を開催した。
3.英語教育のユニバーサルデザイン一音節感覚を育てよう	単	2021年6月	LD, ADHD & ASD 7月号，明治図書，pp.52-53.	英語の音韻意識獲得は段階的に進めることが望ましい。英語の音節感覚育成のアクティビティとして、多音節を母音を中心に小さく分節する簡単な方法を紹介した。
4.英語の学びの「音と文字」ことはじめ	単	2021年4月	LD, ADHD & ASD 4月号，明治図書，pp.52-53.	音韻意識の弱さから英語の読み書きにつまずく可能性について言及し，日本人児童への指導の方法について紹介した。
5.教科におけるユニバーサルデザインの実現に向けて	単	2019年9月	英語教育 10月号，大修館，pp.46-47.	ユニバーサルデザインが今後各教科において実現されるために，英語教育では何を焦点とするべきかについて検討した。
6.生徒の特性に応じたリスニング指導	単	2019年8月	英語教育 9月号,大修館，pp.30-31.	聴覚の情報処理が弱いとどのような問題につながるか，また，どのような音韻意識指導が有効かについて説明した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20190334
7.導入期の指導一合体！海の生きものカード遊び	単	2019年5月	英語zine，明治図書オンライン.	音韻意識の 語認識 に焦点をあて，単語のブレンディング遊びを紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20190307
8.絵本を使った導入期の指導	単	2019年4月	英語zine，明治図書オンライン.	英語の絵本の役割や位置づけについて説明し，絵本を紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20190191
9.聞くことの指導一英語の音韻意識3	単	2019年3月	英語zine，明治図書オンライン.	英語の音韻意識の 音素 を意識させる活動を紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20190022
10.話すことの指導	単	2019年3月	英語zine，明治図書オンライン.	遊びながら繰り返すうちに文章が身についていくカード遊びを紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20190118
11.聞くことの指導一英語の音韻意識2	単	2019年2月	英語zine，明治図書オンライン.	英語の音韻意識の 音素 を意識させる活動を紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20181078
12.聞くことの指導一英語の音韻意識１	単	2019年1月	英語zine，明治図書オンライン.	英語の音韻意識の段階的な育成について理論を紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20181033
13.読むことの指導一文の読み練習	単	2018年12月	英語zine，明治図書オンライン	単語が読めるようになった後，文を読むために必要なステップについて説明した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20180964
14.英語圏のアプリで読みと書きの準備2	単	2018年11月	英語zine，明治図書オンライン.	発音に自信のない指導者・保護者は良質のアプリを用いることで十分フォニックスや音韻意識指導が可能である。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20180852
15.英単語の音声化がスムーズにできない生徒のための読み練習シート	単	2018年9月	英語教育，大修館，pp.35-37.	アルファベットが読めても単語が読めない中学生向けに，フォニックスを段階的に練習できるワークシートを作成した。特徴はオンセット-ライムの単位でC-VC単語を混成する点である。
16.読むことの指導一英単語を読む	単	2018年8月	英語zine，明治図書オンライン.	単語の読みにはどのような条件（学習レディネス）が必要なのか。暗記ではない 読み （デコーディング）について解説した。
17.小学校英語とLD	単	2018年7月	LD/ADHD＆ASD７月号，明治図書，p.52-53.	教科化が始まる小学校高学年では，学習障害の子どもにどのような配慮が必要かについて意見を述べた。
18.文字の認識力を高める・アルファベットの指導2	単	2018年7月	英語zine，明治図書オンライン.	アルファベットの文字と音の対応習得はすぐに身につかない。多感覚学習法を用いた指導法の工夫を紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20180511
19.文字の形に慣れ親しむって？アルファベットの指導1	単	2018年6月	英語zine，明治図書オンライン.	アルファベットの形状をどのように覚えやすくするか，多感覚学習法を用いた指導法の工夫を紹介した。https://www.meijitosho.co.jp/eduzine/udte/?id=20180305
20.文字を知っているだけ，音を知っているだけでは 読めない 書けない ～音韻意識ってなんですか	単	2018年3月	実践障害児教育4月号,学研プラス，pp.44-47.	英語圏のディスレクシアについて紹介し，日本語とは異なる音韻体系の言語を学ぶことについて，読み発達の観点から概説した。
21.英単語は知らなくても読める！書ける！	単	2018年2月	英語zine，明治図書オンライン.	フォニックスの基本的な考え方について概説し，音韻意識の役割とともに紹介した。
22.しっかり取り組もう！アルファベット（１）	単	2018年1月	実践障害児教育2月号,学研プラス，pp.46-47.	アルファベットで躓きやすいポイントについて概説し，指導法を紹介した。
23.英語学習につまずく	単	2017年12月	実践障害児教育1月	英語が難しいのは学習障害の児童生徒だけではない。躓きに配慮し

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
子達への適切な指導を目指して			号,学研プラス, pp.46-47	た指導の工夫について提案した。
24.特別 でなくなった特別支援教育-１０年を振り返って	単	2017年9月	英語教育 ，大修館書店，pp.28-29	過去１０年間を振り返り，法的整備の変化および教科における特別支援，ユニバーサルデザイン教育について概説。
25.小学校英語と特別支援教育(1)“みんなにわかる”外国語活動を目指して	単	2017年4月	東書Eネット：小学校英語，東京書籍.	小学校では英語は教科ではないものの，ローマ字や音声活動で既に遅れが見られる児童が存在する。どのようなポイントが子どもにとって難しいのか，気づきにつながる視点を提案した。
26.特別支援教育向けの教材開発	単	2015年10月	英語教育，大修館書店，pp.60-61.	特性に偏りのある児童生徒にとって文字指導はどうあるべきか。教材の工夫について述べた。
27.文法の指導	単	2015年9月	英語教育，大修館書店，p.45.	多感覚を用いる英語の文法指導について提案した。（加賀田哲也，村上加代子）
28.英語の読み書きにつまずく生徒への指導	単	2015年8月	実践障害児教育，学研教育出版，pp.24-27.	読み書きの苦手になる背景にはディスレクシアの可能性がある。ディスレクシアに配慮した英語指導について提案した。
29.アルファベットの読み書きの指導	共	2015年4月	英語教育，大修館書店，p.49.	文字指導の難しさについて概説し，具体的な指導法を提案した。（加賀田哲也，村上加代子）
30.英語における合理的配慮とは	単	2015年3月	英語教育，大修館書店，p.15.	インクルーシブ教育の実現に向け，合理的配慮も各教科において推進する課題である。英語教科ではどのような合理的配慮が必要か提案した。
31.タイプ別・配慮の具体例	単	2014年2月	英語教育，大修館書店，p.15.	発達障害のある児童生徒のタイプを大まかに区別し，それぞれのタイプによってどのような弱さや強みがあるかを概説。具体的な支援例を提案した。
32.その子の学び方で教えるということ	単	2014年1月	英語教育，大修館書店，p.15.	子どもにとって情報処理や記憶の方法は，自分にあった方法を用いるのが最も効率が良い。一律な指導ではなく多感覚を用いる利点と方法について提案。
33.継次処理と同時処理	単	2013年12月	英語教育，大修館書店，p.15.	情報のインプットには，経次処理，同時処理があり，認知に偏りがある場合，いずれかが特に強い（弱い）場合がある。強みを生かした指導について概説した。
34.心理アセスメントを生かした指導とは	単	2013年11月	英語教育，大修館書店，p.15.	WISCやK-ABCなどの心理検査の結果を日々の授業に配慮として生かす工夫，所見ポイントについて概説した。
35.読み書きの指導：集中できないＡくんのケース(3)		2013年10月	英語教育，大修館書店，p.15.	注意欠陥のあるAくんの例を紹介し，英語学習場面ではどのような支援が必要かについて開設
36.行動と家庭学習の支援：集中できないAくんのケース(2)	単	2013年9月	英語教育，大修館書店，p.15.	注意欠陥のあるAくんの例を紹介し，どのように教室での学習行動と家庭学習を支援していけるかについて提案した。
37.子どもの特性に合わせてすぐに取り組める英語の指導	単	2013年8月	実践障害児研究，学研教育出版，pp.28-31.	不注意，多動，自閉症スペクトラム，学習障害など，発達障害の様態やその程度はさまざまで一律な対応はできない。どのような配慮が必要化について提案した。
38.躓かせないためのアセスメント(2)適切な学習環境を作る	単	2013年7月	英語教育，大修館書店，p.15.	落ち着きのない児童生徒の理解と指導での配慮例について紹介した。
39.躓かせないためのアセスメント(1)学習状況の把握	単	2013年6月	英語教育，大修館書店，p.15.	英語の標準アセスメントはないが，日本語やその他の簡単なアセスメントによって英語での躓きをある程度予測できる。
40.ディスレクシアと英語学習	単	2013年5月	英語教育，大修館書店，p.15.	LDのある児童生徒の背後には，ディスレクシアが隠れていることがある。ディスレクシアとは何かについて概説した。
41.『困っている子』に寄り添う	単	2013年4月	英語教育，大修館書店，p. 15.	LDのある児童生徒はどのような困難を抱えているのかについて事例とともに紹介した。
６．研究費の取得状況				
1.インクルーシブな小学校外国語教育カリキュラム・マネジメント及び教員研修の開発	共	2020年4月～2023年３月	科学研究費補助金（基盤研究B）	本研究は特別なニーズのある児童も含めた全ての児童の確かな学びを保障する小学校外国語の教科および中学年での外国語活動の運営の在り方を提案する。村上は小学校教科書の比較分析および指導書の分析，教員アンケート調査の考察を担当する。研究代表者　松宮奈賀子；研究分担者　川合紀宗，中山晃,村上加代子，大谷みどり
2.共生社会を目指す教育の実現のための学	共	2020年4月～2023年3月	科学研究費補助金（基盤研究C）	英語学習の小・中連携を円滑かつ効果的に実現するために，学びにくさのある児童生徒の英語学習時における躓きの現状を明らかに

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
習障害児童への英語学習支援の統合的研究				し，適切な指導につなぐことを目的とする。具体的には 読み書きの現状把握および躓きチェックテスト と 教師の気づきのためのチェックリスト の開発を行う。研究代表者　村上加代子 研究分担者　酒井志延，村田美和
3.小学生への音韻意識指導の実践に基づいた音韻意識プログラムの開発	単	2016年4月～2018年3月	科学研究費補助金（基盤研究C）	本研究は，英語圏では基礎的な読み書きのスキルとされる音韻意識指導に着目した研究である。小学生校での 音に慣れ親しむ 活動における，音韻意識プログラムを提案する。3年間の継続調査で同一小学校の児童を対象として,音節，オンセット-ライム，音素の順序で音韻意識指導を行い，発達過程について調査し，指導効果を検証した。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2022年4月～現在	日本LD学会紀要「LD研究」編集委員
2.2019年6月～現在	英語教育ユニバーサルデザイン研究学会　会長
3.2018年～現在	ことばの科学会
4.2014年4月～現在	全国英語研究学会
5.2010年9月～現在	特別支援教育士資格認定協会
6.2010年3月～現在	日本LD学会
7.2009年12月～現在	日本児童英語教育学会
8.2009年10月～現在	小学校英語教育学会
9.2009年10月~現在	英語授業研究学会